はじめに

株の上手い人と、そうではない人とでは何が違うのでしょうか。

株の上手さを決めるのは保有資産の金額でしょうか。

これまで20余年、私は個人投資家交流会やＩＲセミナーを運営してきましたが、その場でたくさんの、そして、さまざまな「株の上手い」投資家のみなさまと出会ってきました。

投資の世界では、資産額が大きい人が注目されがちです。書店やYouTubeを見ても、資産額の大きさで投資力を測るような空気があります。それを間違いだとは思いませんが、**資産額だけで株の上手さ、投資力を判断することには、私は強烈な違和感を持っています。**

たとえば、次の2人がいたとします。

25歳　時価1000万円の株式保有
50歳　時価10億円の株式保有

この2人を比べる際、25歳の若さで1000万円に達している人物の方が、株の上手い人である可能性があります。元本がいくらか、投資期間にもよりますが、この人物が50歳まで投資力を磨きながら投資を続ければ、その資産は10億円をはるかに超えているかもしれないからです。

また、ある時点の時価だけで資産額を認識してしまうと、信用取引などで大きなリスクを取っている人が「株の上手い人」に見えてしまうこともあります。しかし、それで本当に株の上手い人と言えるのかといえば、疑問が残ります。

たまたま大きく当たっただけなのか
望んだ結果を繰り返し出せているのか
リスクを十分に理解・認識できているのか

「株の上手さ」を測るうえでは、これらの点をそれぞれ考える必要があります。

では、株の上手い人とは、どんな人でしょうか。

私が考える「株の上手い人」とは、短期間で大きく儲けた人ではありません。自分の判断軸を持ち、仮に失敗してもその理由を冷静に振り返ることができ、相場環境が変わっても前向きに学び続けられる人です。

「株の上手い人」、彼らは大きく分けると2種類存在します。

一つが、言語化できない「**天才**」です。

長嶋茂雄さんのように、感覚的に本質をつかんでいて、本人自身もそれをうまく言葉にできないけれど、とにかく結果を出してしまう人です。なぜその銘柄を選べるのか、なぜそのタイミングで売買できるのかを言葉で説明しきれなくても、圧倒的な勘や経験値で勝ててしまう。これが「天才」です。

もう一つが、「**言語化できる投資家**」です。

このタイプの投資家は、銘柄を語る深さがまったく違います。その魅力だけでなく、期待できるリターン、想定されるリスク、株価に何がどこまで織り込まれているのか、そして「どの前提が崩れたら見方を変えるのか」まで、他人が聞いてもわかるようにきちんと言葉にできます。私自身、その言語化の上手さ、巧みさに何度も驚かされてきました。

成長株投資、バリュー株投資、高配当投資など、手法は投資家によって十人十色です。しかし、どんな手法であっても、株の上手い人にはある共通点がある――というのが、長年数多くの株の上手い人とそうでない人を見てきた、私の結論です。

その共通点とは、「**一次情報を大切にしていること**」です。

本書では一次情報を、企業が発信、公表する投資家向け情報（いわゆるＩＲ〈Investor Relations〉資料）、および、投資家を対象に企業が登壇する勉強会やセミナー（いわゆるＩＲセミナー）とします。

ＩＲ資料には、企業が公表する決算短信や有価証券報告書のほか、決算説明資料が含まれます。

ＩＲセミナーとは、上場企業が個人投資家に向けて、自社の事業内容・業績・成長戦略・今後の見通しなどを説明する場です。決算説明資料やホームページだけでは伝わりにくい企業の考え方や強みを、経営者やＩＲ担当者の言葉で直接聞くことができます。また、質疑応答を通じて、投資家が疑問に感じている点を確認できることも大きな特徴です。

したがって、**Ｘ（旧Twitter）や雑誌で見かける「有名投資家のおすすめ3銘柄」といった情報は、一次情報には該当しません。**企業自らが発信していないからです。ＳＮＳや雑誌で手に入る情報を鵜呑みにするのではなく、企業が発信するＩＲ資料を読み、ＩＲセミナーに参加し、経営者やＩＲ担当者の言葉に触れ、自ら考えをまとめる。株の上手い人はそれを繰り返すことで投資力をさらに鍛え、強化しています。それゆえ、彼らは投資の世界で長く生き残っているのです。

一次情報の重要性を強調するのには2つの大きな理由があります。

一つは、私自身の経験です。第1章で詳しくご説明しますが、株を始めて最初の約10年は大失敗を何度も経験し、資産を増やすどころか減らしてばかりでした。しかし、一次情報である、企業の決算短信や決算説明資料等のＩＲ資料を直接、自分でチェックするようになって以降、成績が大きく改善し始めたのです。

もう一つは、ＩＲ資料に注がれている時間と作り手の想いです。企業で資料作成に携わるＩＲ担当者のみなさまは、投資家に自社を正しく理解してもらえるよう、多大な時間と労力をかけられています。企業の中の人が自分たちの現状を伝えようとしているＩＲ資料、さらに、彼ら自身が登壇するＩＲセミナー、これらの一次情報は自分で言語化するための大きな助けとなります。

では、なぜ私がここまで「一次情報の重要性」に確信を持っているのか。

ここで、簡単に自己紹介をさせてください。

私は「**Kabu Berry（カブベリー）**」というブランドで個人投資家交流会やＩＲセミナー

を主催しております、yama と申します。

Kabu Berry は、もともと私が一人で始めた小さなオフ会でした。その後、ＩＲセミナーの運営が本格化したこともあり、２０２４年に法人化しました。これまで２５０社以上の上場企業のＩＲセミナーを開催した実績があり、２０２５年は単年で１５１回に達しました。２０２６年上半期（1月から6月）で81社、開催しており、年間でも新記録を更新しそうです。

リアル会場でのセミナー開催時の受付や財務・経理の実務などは妻に任せていますが、セミナーの企画から司会進行、オンライン配信、Ｗｅｂサイト作成に至るまで、Kabu Berry を始めて以来、基本的には私一人で完結させる**「ワンオペ」**で運営しています。気づいたら一人でもできてしまっていた、という感覚ですので、行き届かない面もあるかと思いますが、なんとかこれまで続けてこられました。

実は、個人投資家向けの勉強会は、この数年で大きく広がってきています。勉強会の形もさまざまです。参加者が銘柄をプレゼンしてその長所や短所を議論するもの、著名な個

人投資家をゲストに招いて講演していただくもの、企業を招いてＩＲセミナーを企画するものなど、多様な形で、さまざまな場所で実施されています。

Kabu Berry はＩＲセミナーを中心に開催していますが、「湘南投資勉強会」や「神戸投資勉強会」などの個人投資家発の勉強会においても存在感を年々高めており、ＩＲセミナーの開催回数が増え続けています。

これら個人投資家が主催するＩＲセミナーに加え、個人投資家向けＩＲセミナー業界自体も、この４年で回数が３倍以上に急増するなど、大きな変化が起きています。

以前は、大手証券会社が顧客向けに開催するものが中心でしたが、その後、オンライン証券、専門メディアなどもＩＲセミナー開催に進出してきました。近年では、ログミー Finance やＩＲＴＶなど、主催者はさらに幅広くなっています。また、上場企業自らが開催するケースも増えつつあります。

日経平均株価の上昇や最高値更新などで株式市場が活況であることも一因ですが、それ

以上に、個人投資家と企業、双方の間でＩＲ活動の現場での「対話の重要性」に対する認識や意識が高まっていることが、こうした変化の背景にあるのは間違いありません。

このように急拡大を遂げるＩＲセミナーにも、さまざまな形式が存在しています。企業のプレゼンテーションがメインで、聞き手（投資家）からの質問時間が少ない（もしくはゼロの）ケースもあれば、質疑応答のための時間をしっかりと取った「対話型」のセミナーもあります。

私が運営するKabu Berryでもっとも大切にしているのは「**質疑応答**」です。通常の開催では40分程度をあてる『**対話型**』**ＩＲセミナー**にこだわっています。

この質疑応答を充実させることによって、投資家の登壇企業への理解や納得が深まるだけではありません。実は、参加している他の投資家の質問を聞くことで、「企業の評価や分析手法」について新たな視点や学びを得られるという、非常に大きなメリットが生まれます。

なぜなら、この『対話型』ＩＲセミナーの現場にこそ言語化に秀でた「株の上手い人」が集まっているからです。

本書では、企業自らが発する一次情報にフォーカスして、ＩＲ資料をどのように読めばよいのか、ＩＲセミナーではどこに注目すればよいのか、そして実際のＩＲセミナーの現場でどのようなやり取りが行われているのかを、具体的にお伝えしていきます。

私が実際にＩＲセミナーを企画し、数多くの企業や投資家のみなさまと接する中で感じてきたことをもとに、ＩＲ資料とＩＲセミナーの具体的な活用法をお伝えしていくことで、これまで「なんとなく眺めるもの」だった一次情報を、自らの投資力を引き上げるための「道具」へと変えることを目指します。

「１日10分でもいいから、自らＩＲ資料に触れてみよう」
「『対話型』ＩＲセミナーに参加して、何か一つ質問してみよう」

実際に行動へ踏み出せたら、最初はその効果を実感できなくても、時間とともに投資力が磨かれ、ご自身の資産形成に寄与するだけでなく「知的なエンターテインメント」としても楽しめるようになります。読者のみなさまにそれを体感していただけたら、これほど嬉しいことはありません。

それでは、株の上手い人が集まるＩＲセミナーの入口に向かいましょう。

目次

はじめに 3

第1章 なぜ凄腕投資家の本を何冊読んでも株が上手くならないのか 21

株式投資における「下ごしらえ」とは 23
大失敗 その1 SBIホールディングス 27
大失敗 その2 ダブルインバース 30
企業の一次情報をもとにブログを書き始める 33
一次情報の重要性を痛感 34
IR資料は個人投資家にとって最高のテキスト 35

第2章 1社10分のカンタン下ごしらえ 39
1社10分で確認、5つのポイント 41
①会社情報（株探） 43
②主要な指標【PER・PBR・配当利回り・時価総額】（株探） 44
③過去から現在への業績推移（株探） 46
④ビジネスモデルの確認（IR資料） 48
⑤最新決算内容の確認（IR資料） 51
IR資料で投資を見送ることもある 53
IR資料をIRセミナーでどう活かすか 54
自分だけの「ものさし」を育てよう 55

第3章 株の上手い人が集まる『対話型』IRセミナー 59

IRセミナーの醍醐味とは 60
初心者がセミナーで答えを探すべき「4つの問い」 63
IRセミナーに参加する前の準備 65
登壇企業のプレゼンで注意したいこと 66
質疑応答(1)質疑応答のための時間がどれだけ取られているか 68
質疑応答(2)会社の「本質」を引き出す質問の力 70
質疑応答(3)質問の質の磨き方 74
質疑応答(4)他人の質問は、そのままあなたの「武器」になる 76
質疑応答(5)企業の「魂(ビジョン)」を引っ張り出す質問 80
質疑応答(6)IRセミナーで心がけたいマナー 84
質疑応答(7)投資力が試される「質問の変換技術」 87
帰りの電車で5分! 投資力を2倍にする「言語化メモ」 88
興奮を冷ます「フラットな視点」 90

「買わない」と決めることも、立派な一流の投資判断 92

第4章 紙上再現 『対話型』IRセミナー 95

【コラム】Kabu Berry Lab 登壇企業のコメント リアルゲイト 132

第5章 『対話型』IRセミナーの実例、いろいろ 137

日本電産（現ニデック）（6594） 138
フォースタートアップス（7089） 139
NTT（9432） 143
セレンディップ・ホールディングス（7318） 145
トヨクモ（4058） 149

アップガレージグループ（7134）151
ヨシックスホールディングス（3221）154
ジェイ エイ シー リクルートメント（2124）156
グローバル・リンク・マネジメント（3486）159

【コラム1】登壇企業から見た『対話型』IRセミナー 164
【コラム2】個人投資家から見た『対話型』IRセミナー 174

第6章 実績ゼロの素人なのに、株の上手い人が20年集まり続ける場をつくれたワケ 181

誘われないなら、自分で作る――向こう見ずな性格が扉を開かせた 183
すべての始まりは、2006年5月27日、参加者15名から 186
「冬の時代」を乗り越え、なぜKabu Berryは生き残れたのか 188

まさかのオファーと「桐谷さん降臨」 189
最大の転機は「開催2週間前のドタキャン」 192
常識を「知らなかった」からこそ生まれた、100分間のコール&レスポンス 196
22年勤めた会社を辞め、Kabu Berry に全集中 199

【コラム】名古屋の長期投資家（なごちょう）から見た Kabu Berry 202

おわりに　インベスターではなく、イベンターとして 210